

# 社会を明るくする運動

高校生の部優秀作文

## 笑顔をつくる農業経営者になるために

菊池農業高等学校3年 松岡紘平さん



「人として、一番しあわせなこと。それは、好きなことを仕事にすること。」  
 「みんなを笑顔にできる、農家になりたい」「そんなふうには思い始めたのは、小学校5年生のころでした。  
 わが家は、いわゆるサラリーマン一家で、農家ではありません。しかし母方の祖父母が、県南にて農業を営んでおり、コメのほか、トマト・メロンといった施設野菜を栽培しています。将来は、祖父母の後を継ぎ、専業農家になることが、私の夢です。夢の実現のため入学した、菊池農業高校。これまで私は農業科の圃場で、様々な実習を積み重ねてきました。  
 1年生の時は、一人一区画ずつのABC農場で、春作としてナスやピーマンを、秋作としてダイコンやハクサイといった野菜を育てました。私の畑は雑草が多く、収穫時には、野菜の葉にたくさん虫食いがありました。水田では、田植えも行いました。裸足で水田に入り、泥だらけになりながらイネの苗を素手で植えるという実習です。「昔の人は、こんな手間ひまをかけて農業をしていたのか・・・」機械化が進んでいる今の世の中、私たちはとても恵まれていると実感します。野菜作りにしても、コメの栽培にしても、これまでの私は、「農業はちよっとコツを覚えれば、だれにでもできる仕事だろう」と、甘く考える面がありました。しかし農業科での実習を通して、生産現場の厳しさや甲斐の両方を実感し、「これからは、農業を通じて地域を支え、世の中全体の課題に立ち向かえる人間になりたい」と考えるようになり、今までの長い間、日本の食糧生産を受け継いでこられた農家の皆さん

の中で話し合い、必要なこと、するべきことを考えました。私は特に、自分の未来のことについて考えたことが自分にとって一番重要だったと思います。  
 私の将来の夢は、建築士になることです。私は、グループ活動の中で、建築士に必要なこと、今の自分が必要なことを達成していくために何をすべきかを考えました。  
 まず、私が建築士に必要なこと、それは、アイデアが豊富だということです。なぜなら、建築士はこれまでの建築の仕事ではなく、別の新しい発想を思いつくことが大切だと思ったからです。そして、アイデアを豊富にするためには、リスクを恐れず挑戦し、いろいろな経験をすることが必要だと考えました。具体的に、自分の意見を持ち、発言することや、部活できついなことから逃げないで挑戦することなどがあります。それはいつでもできることです。そして、いろいろな経験をすることは、自分の考えを変えていくことにつながるのです。建築士だけではなく、他の仕事にも通用することだと思いましたが、  
 また、未来の自分を変えることができたのは、グループの仲間と大学生の方々のおかげだと思っています。仲間と一緒に協力することや、真剣に相手のことを考え、相手を理解することがグループで大切なことだと思いました。  
 次に、これからの自分について考えたことです。私は建築士という夢がありました。しかし、今できることは、建築士だけに必要なことではないことが分かりました。したがって、リーダーとしてこれからの自分に必要なことを三つ考えまし

に、本当の意味で感謝する気持ちが芽生えたのです。  
 こうした気持ちの変化と共に、2年生では、1年生の時の失敗を活かそうと考え、自分の畑の観察記録を早く終わらせ、余った時間を利用して除草することにしました。結果、1年生の時と比べて畑の見栄えも良く、害虫が減ったことで栽培が上手くいきました。雑草や、収穫後の野菜の不要な部分は、農業科で飼育しているヤギに与えました。農業や環境に対して、動物が果たしてくる役割についても確認した私は、目の前の生き物や毎回の実習から学ぶ一つ一つのできごとを大切に、吸収していこうと考え、少しずつではありますが、自分なりに努力するようにになりました。  
 農業に対する意識が変わり始めた、2年生の秋、人生初、よそのお宅に泊り込む「現場実習」が始まりました。コメや水田ゴボウの栽培をされている、菊池卒業生の吉田さんにお世話になり、あいさつの仕方、目上の方との話し方など、社会人として基本的なことから教えていただきました。長時間の地道な作業が多く、特に、ゴボウやニンジン等の圃場での「石出し」や除草が、とても大変でした。取っでも取っても出て来る、石や雑草の多さ、一輪車で何度も運んだり、何時間もしゃがみ込んでの作業に、足腰が痛くなり、精神的にも限界を感じました。そんな中、疲れを見せることなく、いきいきと仕事をされる吉田さんご夫妻。「何をしても、仕事に対する姿勢が一番。真剣にやっていたら、必ず身につけていく。」この言葉に、「体にも心にも力をつけ、いつの日か、自分も地道な仕事を笑顔ででき

# プラチナ未来人財育成塾

参加報告

## 育成塾から活かしたいこと

菊池北中学校3年 廣瀬晃太さん



私は、今回の会津と柏の葉でのプラチナ未来人財育成塾に参加して、これからの自分を考えることができました。それを考えることができたのは、たくさんの先生方の講義を受けたことや、グループの仲間との活動や話し合いを通して、具体的に必要なことを見つけたからだと思います。私は、心に残った講義と、グループでの活動を通して思ったこと、これからの自分について考えたことを報告します。  
 まず、心に残った講義についてです。私がいちばん心に残った講義は、ラグビー日本代表ヘッドコーチ代行である中竹竜二先生の講義です。中竹先生は、元早稲田大学ラグビー部主将でした。しかし、ラグビーを上手にできるわけでもなく、ほとんど補欠の選手でした。ラグビーでは活躍できなかった先生は、部活のリーダーとして活躍し、いろいろな経験をされていきました。先生がリーダーになつて思ったことは、誰でもリーダーになれること。自分にしかできないことを頑張ることでした。  
 先生の言葉の中に、私がいちばん印象に残った言葉があります。その言葉は「成功は適切な目標が大切。成長は、適切な失敗と挑戦が大切。」という言葉です。私は、部活動でも学校生活の中でも、常に失敗を恐れず行動していることをこの言葉で気づくことができたと思います。  
 次に、グループ活動を通して思ったことです。グループでは講義の振り返り、講義の中で自分の心に残ったキーワードについてグループで話し合い、考えを深めあうなどの活動をしました。そして、もう一つ、自分の未来についてグループ

の中で話し合い、必要なこと、するべきことを考えました。私は特に、自分の未来のことについて考えたことが自分にとって一番重要だったと思います。  
 私の将来の夢は、建築士になることです。私は、グループ活動の中で、建築士に必要なこと、今の自分が必要なことを達成していくために何をすべきかを考えました。  
 まず、私が建築士に必要なこと、それは、アイデアが豊富だということです。なぜなら、建築士はこれまでの建築の仕事ではなく、別の新しい発想を思いつくことが大切だと思ったからです。そして、アイデアを豊富にするためには、リスクを恐れず挑戦し、いろいろな経験をすることが必要だと考えました。具体的に、自分の意見を持ち、発言することや、部活できついなことから逃げないで挑戦することなどがあります。それはいつでもできることです。そして、いろいろな経験をすることは、自分の考えを変えていくことにつながるのです。建築士だけではなく、他の仕事にも通用することだと思いましたが、  
 また、未来の自分を変えることができたのは、グループの仲間と大学生の方々のおかげだと思っています。仲間と一緒に協力することや、真剣に相手のことを考え、相手を理解することがグループで大切なことだと思いました。  
 次に、これからの自分について考えたことです。私は建築士という夢がありました。しかし、今できることは、建築士だけに必要なことではないことが分かりました。したがって、リーダーとしてこれからの自分に必要なことを三つ考えまし

た。  
 一つ目は、考えることを大切にすることです。特に大切にしたいのは、自分が失敗したときに、振り返って次に生かせることを自分で見つけることです。  
 二つ目は、常に疑問を持つことです。疑問を持つて話を聞くと、もっと知りたいたいと思うようになります。そして、その疑問を相手に質問すれば、相手はよく考えて返答することになり、今までになかった考えが生まれると思います。だから、疑問を持つことは、相手にとっても、自分にとっても必要なことだと思いましたが、  
 三つ目に、自分の意見を持ち、発言することです。これまで私は人に頼っていたり、流されたりしていました。しかし、それは自分の意見や考えを持つていなかったからだと思います。人に頼ることは楽なことです。人に流されるのは自分で考えようとしなからずです。これからは自分の意見を持ち、グループの中で発言することを心がけ、リーダーとしてまとめていきたいと思っています。  
 この三つのことから、僕は人に支えられるより、自分が支えるリーダーになりたいと思います。周りから協力してもらえようというリーダーになつて自分を変えていきたいです。  
 最後に、今回プラチナ未来人財育成塾に参加して、これまでの自分に足りなかったこと、これまでの自分がどんな心構えで行動していたのかがよく分かりました。学校生活では、人に流されることなく、リーダーとして周りのことを考え、先を見通した行動をしていきたいと思えます。 ※作文は抜粋しています。